



会報 第43号
— 発行者 —
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
— 編集 —
同上編集委員会
— 印刷所 —
(株)井上総合印刷



「株式会社輝夜」のメンバーと青木実行委員長



関東地区介護技術コンテスト



東関東アンサンブルコンテスト

魂に汗をかく



校長
押久保
徹

令和二年の新年を迎え、同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
また、平素より本校教育活動に對しまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。お陰様で生徒教育活動が滞りなく出来てい

動が滞りなく出来ていること、これも同窓会の皆様の御尽力のおかげであります。
そして、今年度同窓会より、第一体育館増

上の袖膜の修繕に對し多大なる寄付をしていただき誠にありがとうございます。御礼申し上げます。
さて今年度の生徒の活躍を紹介したいと思います。
三つの農業専門学科は地域との連携事業を更に積極的に進めております。

生物生産科は高品質の農産物や畜産物を生産し、米に続いて梨のGAPを取得しました。生産工程での安全・安心の見える化、マニュアル化を実践しています。また、更に期待が持てま

また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。

また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。

また、本校独自の学校行事でも同窓会の方々と御協力のおかげで充実した物になりました。特に北

吹奏楽部初となる東関東アンサンブルコンテストに打楽器部門で出場しました。各部活動とも放課後は活気ある声とともに熱心に取り組む生徒たちの姿があり、更なる活躍が大いに期待されます。



地域後継者

同窓会会長
廣田 茂十郎

令和になり、初めての新年を迎え、会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

青年部部長
あいさつ
平成二十一年度卒
小玉 裕 貴



また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

P.T.A会長挨拶



P.T.A会長
一野瀬 麻 紀

また、県内の高校生、大学生など次世代を担う若者から企業プランを公募する「第七回とちぎアンソプレナー・コンテスト」で最優秀賞に選ばれました。

さらに部活動においては、団体個人の部で準優勝になるなど素晴らしい成績を収め伝統校の力を存分に発揮しています。

叙勲おめでとうございます

危険業務従事者

(消防功労)受章

昭和四十二年度卒

近藤 彰 雨

平成最後の三十年秋の叙勲に於きまして、危険業務従事者(消防功労)と云うことで、瑞宝双光章を賜うことも、受章の栄に浴することが出来たこと身に余る光栄と思っております。

十一月七日、午前総務省に於きまして、伝達式があり、午後には皇居宮殿春秋の間に於いて、妻と一緒に天皇陛下に拝謁を賜り誠に感激の極みでございました。

私は、今振り返ってみますと、昭和四十二年同校を卒業、海上自衛隊に入隊し、教育隊、集団司令部、術科学校、航空隊に勤務してまいりました。昭和四十七年九月三十日事情によりまして、退官し、十月一日から石橋地区消防組合に消防吏員として従事することになりました。当時設立もない組合消防でしたので、条例、規則等また消防車救急車も性能があまり良くなく大変苦労いたしました。県内の伝統ある消防との交流も大変でした。警防課(火災等を防衛する)予防課(火

災等を予防する)総務課(職員の福利厚生)通信指令課(無線通信)救急救助(人命を助ける)と二十代から、定年六十歳まで勤務してまいりました。長いようで短い期間ではありましたが充実した仕事でありました。また、自治会では公民館会計、町会長として役職をこなしました。市関係では平成二年からスポーツ推進員として活動しています。現在も地区民生児童委員として活動しています。それもこれも体が健康で活動できることは、父母親からもらった体と感謝しております。

最後になりましたが、今後は、この榮譽に恥ることのないよう一層の精進を重ねる所存でありますのでこれからも宜しくお願い致します。真岡北陵高校のますますの発展とこれからさらなる在校生の活躍をお祈り申し上げます。同校卒業生にもこのような人が居たと心に留めていただければ幸いです。ります。

市議会議員・町会議員当選おめでとうございます

市貝町議長に就任して

昭和三十八年度卒 和久 夫



長男は農学校へ、という雰囲気の中で、真農に進学した私が出逢ったのは、未来の農業青年を育成するという、教育熱心な先生方であった。

当時の真農は、ブラジルにも農場を有し、海外移住にも熱心であった。海外の大規模農業をこの目で見た、しかし、当時の日本は個人が海外視察に行けるような経済状態ではなかった。そこで、まず農閑期を利用して、北海道の農業を見る事から始めた。そして国内各地の実態を確認するのに十年以上かかった。そうしている内に、政府が明

その後の地元への要請を受け、農業委員、議会議員に就任した。現在、市貝町議長、芳賀広域協議会会長として、仕事をさせていただいていますが、これも真農時代の経験から得たことだと思っております。

益子町議会副議長就任挨拶

昭和四十七年度卒 高橋 家光



令和二年の新年を迎え、同窓会の皆様には謹んで新春をお祝い申し上げます。また、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年五月八日、令和元年第一回臨時議会において、多くの議員のご推挙をいただき副議長という大任を拝し、身に余る光栄と感激したところにございます。また、同時に責重の重さを痛感しているところでございます。今後、副議長として全力を傾け、公正かつ円滑な議会運営に努めて参ります。これからの地方においては、最大の課題として

急速に進み続ける人口減少対策がもたられております。また、近年多発する自然災害に対する危機管理・減災対策、少子高齢化対策、農工商対策等、議会の果たす役割は益々重要になっており、議会としても健全な財政運営や町民福祉の向上をはかり、町民の皆様が「安全で安心」して暮らせる町づくりの実現に向け推進してまいります。また、町議会は、町民に変わってご意見を町政に反映できる機関であると共に、町の意思を最終決定する「議決機関」です。このことから、二元代

活力ある地域農業をめざして

昭和四十五年度卒 荒川 和一



今回、同窓会の皆様から、このような機会を頂き感謝申し上げます。

私が、真農高に入学した当時は、現在の真岡工業で学び卒業時は現在の北陵高の分校舎で学びました。今思えば、この当時の学生時代楽しかった事を思い出します。当時、農家の長男は農業高校に行く事が当たり前で、私にも現栃木農業大学校に進み農業に従事しました。

私の抱負 この度、四月の益子町議会議員選挙で初当選させて頂きました。関係者の方々には、無投票となつてしまつた事は残念に思いますが、女性目線に住み良い町づくりを目指してまいります。

知人の孤独死がきっかけとなります。もっと何かしてやれる事は無かつたのか？行政の対応は十分だったのか？少しでも困っている人の「力」になれるよう取りくんでいきたいと思っております。子育て支援を充実させ

私の抱負

昭和五十一年度卒 関 絹江



ます。益々少子化や人口減少が進みます。その対策として若い人が集まるような環境を整えるために小児科専門の医療機関の誘致や高校までの医療費無償化を推進します。

高齢者福祉政策を充実させます。益子町は高齢者が年々増えていくので、介護福祉サービスの基盤整備を進め低料金で入れる町営の介護施設設置を目指します。

税金のムダをなくし有効活用します。予算を見直してムダを削減してい

議員当選

市議会議員・町会議員

当選おめでとうございます

いっしょに

【真岡市議会議員】

服部正一郎 様
藤田 勝美 様
大瀧 和弘 様
柳田 尚宏 様
櫛毛 隆行 様

【益子町議会議員】

高橋 家光 様
廣田茂十郎 様
関 絹江 様

【芳賀町議会議員】

大根田 弘 様
岩村 治雄 様
岡田 年弘 様
江間田信一 様
有坂 隆志 様
小林 一男 様

【市貝町議会議員】

和久 和夫 様
小泉 栄一 様
山川 英男 様
荒川 和一 様

【上三川町議会議員】

志鳥 勝則 様

優良同窓生紹介

農業、五十年を振り返って

昭和四十五年度卒 高松 正



私は、昭和四十五年三月に、真岡農業高校農業科を卒業いたしました。入学直後に、農業政策の大転換期が到来、減反政策が開始されました。取りあえず我が家の経営は、転換の波には乗れず、兼業農家経営へと進んでまいりました。

その後真岡農業高校をスタートし、茂木高校、宇都宮白楊高校と歴任し、栃木県内の農業教育の実践と指導に微力ではありましたが取り組んで参りました。

組合の役員として、集団転作の経営を実践して参りました。経営の規模と内容につきましては、ビール麦三十七ヘクタール、大豆十七ヘクタール、コスモス十ヘクタールでございました。

今後は、さらに地域後継者達と研鑽を重ね、経営の安定と発展のために努力して参りたいと考えております。未筆ながら、我が母校の発展と活性化を祈念いたします。



農業機械科

科長 岩田 貴宏

農業機械科の生徒活動状況と学科の取り組みについて、紹介します。

①平成三十一年四月二十七日(土)、神奈川県藤沢市にある神鋼溶接サービス株式会社研修センターで開催された「第十回関東甲信越高校生溶接コンクール」に、栃木県代表として本校農業機械科二年佐藤勇輝が参加した。結果は残念ながら入賞とはなりませんでしたが、本人としては精一杯競技に臨んだ結果となりました。

スーパーカブ(緑)をメンテナンスして軽量化加工を図り大会に臨んだ。結果は、一リットルあたり一一・四二五キロメートルという記録で十二チーム中五位であった。上位入賞する事はできなかったが、今大会を含め五回参加している中で一番の記録を出すことができた。参加した生徒も大変良い経験となった。今大会の結果や経験を生かし、来年の大会に向け整備や運転の技術を磨いて今回より



エコラン



平板測量競技会

も良い記録が出せるよう頑張っていきたい。

③令和元年八月七日(土)に栃木県立宇都宮白楊高等学校に於いて「栃木県高等学校農業クラブ連盟平板測量競技会」が行われた。本校からは農業機械科三年生の四名が参加した。本学科には測量の授業がない中で、参加した生徒は一から勉強して練習をすることで技術を磨き、結果は七校中二位という結果であった。今回参加した三年生の頑張りは来年以降参加する下級生に良い刺激になった。この結果を生かして来年



溶接コンクール

クルに向けて頑張っていきたい。

⑤令和二年一月二十一日(火)に栃木県庁で開催された「令和元年度起業家精神育成事業成果発表会」において、農業機械科二年生五名と総合ビジネス科三年生二名が「高齢者の心楽しむ『真岡木綿』製品の開発と耕作放棄地に綿の種を」という題目で発表をした。耕作放棄地と遊休農地が問題となっている中で、農地の有効利用を考える内容を発表し、講評した企業関係者の方から様々なアドバイスをいただいた。また、成果発表の他に各学校との交流し理解を深めた。今後も継続して研究をしていきたい。

以上のように農業機械科で習得した技術やボランティアに参加している。今後も地域に貢献できるような人材育成に取り組んでいきたい。

各科の近況

生物生産科

科長 高橋 由起

生物生産科では、農業経営や農業関連産業のスペシャリストの育成を目標としており、学習活動に取り組んでいる。本年度の活動内容について紹介した。

① GLOBAL G.A.P. 認証

昨年度に引き続き、果樹部門のナシでGLOBAL G.A.P.の新規認証を、作物部門のコメで継続認証を受けることができた。この活動には果樹専攻生と作物専攻生を中心に、生物生産科の一・三年生が関わることができ、安心・安全な農作物を提供するためにどんなことが求められるかということ学ぶこ

とができた。GLOBAL G.A.P.を取得するという目標を達成できたことも重要であるが、G.A.P.教育を進める中で、環境整備や食の安全性に対する意識を高めることができ、大変有意義な取り組みであった。

② 農産物の販売

九月に実施したナシ・ブドウの販売会、十一月に実施したシクラメン販売会では、多くのお客様のご来場をいただき、開始一時間もたないうちに完売することができた。また、学校祭での農産物販売、地元スーパーでのトマト・食肉販売、農産物直売所での米の販売など、校外で販売実



GLOBAL G.A.P. 認証 (全体写真)

習を実施し、多くのお客様に本校の農産物を提供することができた。

このような、生徒たちの販売実習の場である販売会で、たくさんのお客様に来ていただけることは、生徒たちの自信につながっていると感ずる。この場をかりて、日頃より本校の教育活動に、地域の皆様のご理解とご協力をいただいているからこそ感謝申し上げます。



トマトの選別作業



ナシ収穫



シクラメン実習

食品科学科

科長 柏谷 晴之輔

食品科学科では、食品の生産から加工・流通までを総合的に学ぶことができます。また、貯蔵・品質管理及び食品衛生に関する知識と技術を身に

付けることで、食品関連産業への就職や、上級学校への進学を目指します。

今年度の生産実習では、北陵祭で販売する加

工品(味噌、イチゴジャム、ブルーベリージャム)の製造から販売までを行いました。食品科学科の全学年の生徒が製造にたずさわる加工品は、多くの方に購入していただくことができました。

その他の製造実習に関しては、パンの製造や肉加工の学習を行う事で、

技術と知識の向上を図ります。進路指導では、四年制大学・短期大学・専門学校それぞれの見学を実施し、進路意識の向上を目指しています。

校外活動としては、昨年度から開始したベリーネットはが野の「北陵ごはん」のコーナーで毎月食品科学科の生徒がレシ

ピ提供を行うほか、真岡市や茂木町と連携し、いちごや柿を使用した新商品の開発や販売も民間企業や専門学校、道の駅と協力して行っています。それにより、地域の方々にも食品科学科の活動を知っていただくことができました。



短期大学見学 (3年生)



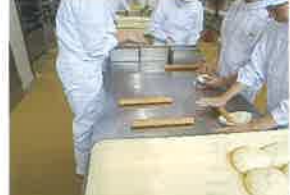
大学見学 (2年生)



専門学校研修 (2年生)



製造実習...いちごジャムの製造



製造実習...食パン製造



デコレーション実習



イベントでの商品販売



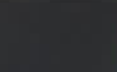
とちぎハイスクールフェスティバル2019

三年五組 大橋 双葉

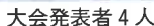
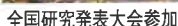
することができて良かったです。

家庭クラブ役員として活動した三年間は、私にとって大きな財産となり、自分自身の成長にも繋がりました。私はこれまで培ってきた経験を大切に、これからは更に進んでいきたいと思っています。

最後になりますが、先生方をはじめとする役員、会員の皆さん、温かいご支援ありがとうございました。今後の家庭クラブ活動が、真岡北陵高校のますますの発展へと結びつきますよう祈念しております。三年間ありがとうございました。

顧問
田崎
朋子

発表の様子



三年三組 山下 伶梨

えもみんなど意見交換することも生まれてくることも多くあり、改めて仲間の大切さを感じることができました。

会長としての仕事が終わりに近づき、寂しい気持ちもありますが、今の私にできることは後輩たちに私が学んだことを伝えていくことだと思えます。また、農業クラブを

顧問
菅原礼太郎

県大会に出場しました。
最優秀賞
三の一 田崎 碧葉

選

- | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--------------------|----------------------------------|-------------------|---------|--------------------|-----------|--|----------------------|---------|-------------|--------------------|
| 10
/23 | 9
/20 | 8
/22 | 8
/19 | 8
/7 | 8
/2 | 7
/12 | 6
/19 | 6
/5 | 5
/9 | 4
/24 | |
| 日本学校農業クラブ連
員研修会 | 第二回役員会・秋季沿
員研修会 | 関東地区学校農業クラ
ブ連盟大会（神奈川）
（県連） | 農業鑑定競技講習会
（県連） | 平板測量競技会 | フラワーアレンジメン
ト競技会 | 校内農業鑑定競技会 | 栃木県学校農業クラブ
連盟大会（プロジェク
ト・意見発表県大会）
（乳牛の部） | 家畜審査競技会県大会
（乳牛の部） | 校内意見発表会 | 校内学校農業クラブ総会 | 第一回役員会・春季沿
員研修会 |

て、四十間

- 年度初めの総会では平成三十年度会務並びに事業報告(校内・県連)、会計決算報告、平成三十一(二〇一九)年度会務並びに事業案(校内・県連)、会計予算案について審議されました。
- 校内意見発表会
本校第一体育館で行われた校内意見発表会では、各クラスから代表者が選ばれて、十名の生徒が出場しました。自分の経験を含めた意見を七分間の原稿にまとめ、しっかりとした態度で発表しました。このうち三名が

【分野・Ⅱ類】

- 生物生産科 最優秀賞
三の一 田崎 碧葉
○農業機械科 最優秀賞
三の二 町田 翔
○食品科学科 最優秀賞
三の三 桑原 陽生
- 栃木県学校農業クラブ連盟大会（各種発表大会）
栃木県教育会館を会場とし、県大会が行われました。校内予選を勝ち抜いたクラブ員が学校代表として出場しました。プロジェクト発表 分野B類で最優秀賞を獲得することができ、関東大会への切符を手に入れることができました。

ついで堂々と発表する。それができました。

- 「一期一会」苺で占める地域の輪」
○意見発表
- 【分野Ⅰ類】
[生産・流通・経営]
（優良賞）
- 二の一 桑原 美空
- 【分野Ⅱ類】
[開発・保全・創造]
（優秀賞）
- 二の三 沖杉 采香
- 【分野Ⅲ類】
[ヒューマンサービス]
（優秀賞）
- 三の一 田崎 碧葉
- 家畜審査競技会（乳の部）
- 栃木県畜産酪農研

家で行われた表彰式

- 神奈川県において第七十回関東地区学校農クラブ連盟大会令和元度神奈川大会が行われた。本校からは栃木県代表として一部門に選出が場し、日頃の研究成果や自分の経験や将来について堂々と発表することができました。
- プロジェクト発表
【分野…Ⅲ類】
「ヒューマンサービス」
(優秀賞)
- 三の三 山下 伶梨 他五
「一期一会 〜苺で
ける地域の輪〜」

- した。本校農場の果樹において、ブドウ・ナ
の販売を通し、果樹専
の生徒と農業クラブ役
が地域の方々との交流
図りました。評判も非
に良く売れました。
- 栃木県学校農業クラ
連盟 表彰式
- 令和二年一月十七日
栃木県立太平少年自然
家で行われた表彰式
は、各競技会で優秀な
績を収めた生徒、役員
して貢献した生徒が、
育委員会や県連盟から
表彰されました。

クラブ員代表者会議に 出場して

二年三組 沖 杉 采 香

私は、十月二十三日、二十四日にかけて山形県で行われた第七十回日本学校農業クラブ全国大会のクラブ員代表者会議に参加してきました。

クラブ員代表者会議の会場の新庄市は豊かな自然に囲まれており、連なる山々がとても雄大でした。普段味わえない景色を目前にして、とても感動しました。一方で、栃木県の代表としてきちんと意見が述べられるかととても不安でしたが、景色の素晴らしいと会場での運営の方々が暖かく歓迎してくれ、自分の気持ちと和らぐことができました。

クラブ員代表者会議は三つの大きなテーマの基に会場に分かれ、全国から集まった高校生が話し合うというものです。私の話し合ったテーマは「農業クラブ員としての自覚を持ち、意欲的に活動し、農業クラブ活動をより活性化させるためにはどうすればよいのか」というものでした。他県から参加したクラブ員は積極的な意見を出し、とても頼もしく見えました。私はすべての農業クラブ員から農業クラブを身近に感じることができ活動内容を募集すること

関東プロジェクト大会に参加して

三年三組 田上 夏 佳

私は、八月二十二日、二十三日にかけて第七十回関東地区学校農業クラブ連盟大会令和元年度神奈川大会のプロジェクト発表分野Ⅲ類に出場しました。

大会に出場した私たち六名は食品科学研究部に所属しており、地域の方々との交流を深める事を目的として活動しています。今年度私たちは二〇二〇年に真岡市で行われる「全国いちごサ

ミットin真岡」に向けた商品開発を行っており、今回の大会ではその取り組みについて発表しました。私たちはいちごサミット関連のイベントへの参加や各種イベントに参加し、私たちが開発した商品の販売やPR活動を通していちごサミットをPRすると共に地域の方々と繋がりを感じることができました。私はこの活動を通じて

「農業鑑定競技全国大会に参加して」

三年一組 田 崎 碧 葉

全国大会で入賞した父に勝つ。そのために私は鑑定競技に取り組んできました。

鑑定競技大会では、参加者の知識が試されます。農業に関することについて、ジャンルは広く、また深く実践的な内容も求められます。私自身三年間勉強をつづけてきたが、範囲のすべてをカバーできたわけではないので、一つをマスターするために十も二十も知る必要がありました。そんな項目は範囲中では数多くあり、勉強する中でくじけそうになることも少なくありませんでした。そういつた時私を支えてくれたのが先生方や弟の存在です。夜まで勉強する私に付き添ってくれたら、励ましていただいた

りしました。また、私に負けまいとする弟には、良きライバルとして成長し、そのおかげで私は勉強し続けたのです。そして、本番を迎えました。前日から会場付近のホテルに泊まり、追い込みをします。栃木県内の代表生徒と寝食を共にし、チーム栃木として勉強に励みました。出来るすべてをやりきった。という充実感のもと本番を迎えることができ、あまり緊張もなく実力を発揮出来たと思います。問題の内容としてはやはり全

今の私に活かされています。結果として、私は優秀賞を受賞でき、当初の目標であった父を超えることは叶いませんでした。が、肩を並べることができました。はじめたころ、入賞のみを目指していましたが、終わった今ではそれ以上に大きなものを得られたと思います。それは、友の存在です。全国大会で知り合った友は、これからの農業を担う同志です。私が将来農家として、地域を引っ張る時、辛いことも多々あるでしょう。そのとき、今回得た友達達が私の心の励みとなるはず。県内にも同じように頑張っている友がいる。このことをもとにこれからも頑張りたいです。

農業鑑定競技会全国大会に出場して

三年二組 町 田 翔

私は、十月二十二日、二十三日にかけて、南東北三県で開催された第七十回日本学校農業クラブ全国大会令和元年度南東北大会の農業鑑定競技会の農業コースに学科代表として参加してまいりました。私が出場した農業コースは農業を営む上で基本となる知識と技術全てが範囲内に含まれており、もちろん私の所属する農業機械科の専門分野も含まれていました。しかし、授業の科目として設定されていない農業経営や農業経済と

いったように、ほとんど分からない範囲もあったため、一から勉強をし直して大会に挑みました。そして、大会当日となり、楽しみと感じるとともに、初めての経験という緊張感に襲われていました。しかし、待合室で同じ県の友達と会話をすることによって、緊張が徐々にほぐれていき、良い形で本番に臨めました。いざ問題を解き始めると、校内とのレベルの違いに驚きを感じず、改めて全国大会に参加している実感も湧いてきました。

た。残念ながら入賞することはできませんでしたが、夜遅くまで勉強し、努力を重ねてきた結果なので、悔いは残っていません。私は全国大会という舞台で多くのことを学び、経験しました。この経験がこれからの人生に役立つ日が必ず来ると確信しています。

最後になりますが、全国大会という大きな舞台を経験させていただき、サポートしていただいた先生方に感謝申し上げます。

「農業鑑定競技全国大会に参加して」

三年三組 小 林 彩 花

私は福島県で行われた第七十回日本学校農業クラブ全国大会令和元年度南東北大会の農業鑑定競技会の食品コースに参加してまいりました。大会に出場するにあたり私は、範囲をノートにまとめたり、過去の問題を解き直したりしました。その中でも、よく理解できていない問題や単語があったときは先生に積極的に質問し、解決してき

う間に過ぎてしまいました。問題全てを解き終わると不安と緊張でいっぱいだった心が解放されていくのが分かるほどでした。待合室に戻ると、答え合わせをするべく、すぐにまとめたノートや教科書を確認していたり、友人と話をしていたりする人がたくさんいました。そこで私も確認をしたのですが、思っていたよりも間違っている部分が多いことに気付きました。悔をしてしまいました。また、速報が発行されるの時間がかかり、不安な時間を過ごす事が多かったです。そして、速報には名前が載っていました。

せんでした。この結果から、私はまだまだ勉強不足だったことを再認識するとともに悔しい思いでいっぱいになりました。私はこの農業鑑定競技会を通して、改めて学べたことがあります。それは、努力と工夫が大切だということです。勉強量だけでなく「要領よく問題を解く」。すなわち努力の心が大切なのではなく、問題の解き方などの工夫も同じくらい大切だということを感じました。私はこの経験を将来に必ず生かしていきたいと思っています。



全国大会参加者



収穫祭（バーベキュー）



校内農業鑑定競技会

第四回栃木県高校生介護技術コンテスト

二年五組 古 谷 友美香

私は、六月八日に行われた第四回栃木県高校生介護技術コンテストのベッドメイキング部門に出場しました。



一年生の頃から一緒に練習してきた仲間と選手に選ばれたときはとても嬉しく、しかしその反面足を引っ張らないよう練習をしなければならぬと思いました。

も声の大きすぎた。何をしているのかをはっきりと通る声にすることが大切と指導されました。二年生になり、コンテストが近づいた四月には、リーダーとサブリーダーの役割が決まり、たくさんの先生方やクラスメイト、先輩や後輩の前でベッドメイキングの発表を行い、緊張に慣れるようメンタル面の強化をし、様々なアドバイスのもとにお互いに意見を出し合い、改善を繰り返して、

完成させていきました。

コンテスト当日



第4回 栃木県高校生介護技術コンテスト

は、今まで大きくさんの練習をしてきたから「大丈夫」と自分に何度か言い聞かせましたが、緊張がとれずに臨んだことを今でも思い出します。コンテストでは緊張しながらも、いつも通りに丁寧なベッドメイキングを行うことができました。その結果、目標にしていた最優秀賞を頂くことができました。先輩の介護技術部門とダブル受賞することができました。

今回、介護技術コンテストを通して、あまり経験のできない緊張感や不安感、ペアとの意思疎通の大切さなどを知ることができました。この経験を生かし、これからの福祉の勉強や実技等に励みたいと思います。

「関東地区高校生介護技術コンテスト」に出場して

三年五組 二 瓶 望 叶



私たち教養福祉科三年の代表生徒三名は、令和元年八月二十四日に群馬県伊勢崎市で開催された第三回関東地区高校生介護技術コンテストに出場しました。

この関東地区高校生介護技術コンテストに出場するためには、まず、令和元年六月四日に行われ

た栃木県大会を突破しなければなりません。栃木県大会の課題は、当日に課題検討室で課題が提示される二段階課題だったため、与えられた事前情報を元に、想定できる介助をひたすら考え、練習しました。そして、当日は、とても緊張しながら課題を検討したことを覚えていま

す。県大会では、制限時間内に介助を終えることができませんでしたが、細かな配慮が高評価をいただき、最優秀賞を受賞し、栃木県代表として、関東地区高校生介護技術コンテストに出場を決めるこ

とができました。その後、関東大会に向けて、群馬県大会を見学し、利用者像を細かく分析しました。そして、分析した内容を元に利用者様にとって最適な介助とは何かを考え、関東大会本番まで、練習に励みま

した。夏休み期間中も、色々な方々のアドバイスをいただくために、校長先生をはじめとする先生方に利用者役になっていただき、私たちの介助に対するアドバイスをいただきました。福祉の視点だけでなく、話し方や言葉一つ一つに対して

も、助言をいただくことができ、介護の奥深さを感じることができました。

また、栃木県介護福祉士会の方にも、学校に来ていただき、一緒に関東大会の課題を検討し、より安全・安楽な介護技術についてご指導をいただきました。

そして迎えた関東大会当日、今まで練習してきたことを出し切ることを目標に大会に挑みました。結果は、優秀賞(第三位)をいただくことができました。全国大会への出場は叶いませんでしたが、今まで練習してきたことを全て発揮できたので、悔いを残すことなく終わることができました。

私たちは、今回、関東地区高校生介護技術コンテストに参加して、介護の基本的なことから、応用的なことまで学ぶこ

「第四回介護福祉の未来作文コンテスト」最優秀賞を受賞して

二年五組 小 塚 美 空

第四回介護福祉の未来作文コンテストで、多くの作品が集まった中、私の書いた作文が「最優秀賞」に選んでいただけたことを、大変嬉しく思っています。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。



私の書いた作文は、祖父についてです。祖父は病気を患ってからは、元気がなくなっていました。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

そんな祖父の役に立ちたいと思い、私は福祉科のある真岡北陵高校を選びました。もし祖父が病気を患っていなかったら、祖父を変えたいとは思っていませんでした。

「栃木アントレプレナーコンテスト」に参加しての感想

三年四組 藤 本 乃 愛

私は、「株式会社輝夜」の一員として、第七回栃木アントレプレナーコンテストに参加しました。

私たちのチームは、「竹粉」を使用した商品の開発を行うことにより、地域の課題解決につながる事業を目指しました。

活動を始めるにあたり、さっそく多くの壁が立ちました。竹粉についての知識が少なく、竹粉についてもっと詳しく知る必要がありました。竹粉に含まれている成分や竹粉の利

点を理解し、疑問に思ったことはその都度調査を行いました。そして、竹粉の利点を活かした商品を開発するために、様々なアイデアを出し合いました。起業を目指す大会ということもあり、将来性や現実性を踏まえながら活動を進めました。そのたびに疑問が生じ、それを一つ一つ解決していくことは、決して楽なことではありませんでした。何度も壁にぶつかり進んだ結果、竹粉を使用した商品開発の実現につ

なげることができたのです。大会当日、今まで取り組んできた活動の成果を発表し、審査員の方々から意見や質問をいただきました。質問に対して受け答えを行い、私たちはまだまだやるべきことがたくさんあると思い知りました。正直、その時心が折れかけましたが、最後までやり遂げたいという思いから、私はさらにこの活動への理解を深めようと頑張り、最終選考に臨

みました。その結果見事、第七回栃木アントレプレナーコンテストで最優秀賞に輝くことができました。

私はこの活動を通して様々な疑問を持ち、それを解決することで、大きな成長につながることができたと感じています。また、互いに支え合ったチームメンバーに対しては、非常に感謝しています。私一人ではできなかったことも、互いに支え合ったことで成し遂げられたのだと、強く実感しています。そして、今回のこのような貴重な経験を活かしながら、この先も進んでいきたいと思っています。

東関東アンサンブルコンテストに出場して

三年三組 篠原 麻理亜

私たちは打楽器三重奏として、令和二年一月二十五日(土)に宇都宮市文化会館で開催された第二十五回東関東アンサンブルコンテストで銀賞を修めることができました。メンバーはマリリンバ担当の私と、尾島あゆか、隅内遥です。演奏曲は安倍圭子作曲「The WAVE Impressions」です。私たちは全国大会出場を目指して、日々練習に励んでいました。北陵高校は東関東大会の出場経験はありません。会場の響き方が分からないという不安や部活内で曲を仕上げるには時間が足りないという焦りがありました。しかし、講師の先生からアドバイスを頂き、改めて全国大会出場を決意を固め、三人で息を合わせた演奏を

茨城国体を振り返って

三年二組 野沢 勇翔

私は、令和元年十月二日(木)から十月七日(月)にかけて茨城県桜川市で開催された第七十四回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」ライフル射撃競技会にビーム・ライフル少年男子立射六十発競技と三十発競技の二種目に出場しました。県代表として出場する大会では、二回目の国体ということ、関東大会や全国大会(インターハイ)と違い緊張がありました。国体は、都道府県の名の知れた代表選手が数多く出場し、競技種目によってはオリンピックに出場した選手も参加していました。私は、三年生になり関東大会や全国大会で上位の成績を残すことができ、自分の射撃に自信を持つことができました。そのおかげで、同年八月に行われた関東ブロック大会にて実力を発揮することができ、国体への出場権を獲得することができました。また、同年九月に行われたJOCジュニアオリンピックカップにも出場して三位入賞し自信をつけました。また、国体前に静



ポート、部員全員の応援や協力があったからこそ結果です。全国大会に進めるのは七百一団体の二団体です。一月は本番を見据えて自ら校内発表の機会をお願いし、その経験と応援を自信に変えて、大会に臨みました。本番は、高揚感で早いテンポでの演奏になりましたが、全力をださざるができませんでした。結果は銀賞で目標には届かず悔しかったです。しかし、大会まで一丸となって取り組むことができた仲間

を誇りに思います。大会参加を通して、演奏ができること、協力や応援があることが当たり前ではないと気づきました。そして、一生懸命努力をすれば結果につながることを、真剣に向き合えば周囲から様々な形の手を差し伸べてくれることを実感しました。高校生活の最後に、この演奏と経験ができたことは何にも変えがたい経験です。進学後も音楽を楽しむ、目標をもって努力を続けていきます。



種目目の三十発競技では昨年三位入賞をしていたので自信を持って臨める競技でした。六十発競技の表彰式後に栃木県ライフル射撃協会の会長から「取り返す射撃ではなく、丁寧で攻める射撃を心掛けなさい」と激励の言葉をいただきました。この言葉を忘れずに競技へ臨み、一発一発を丁寧に攻める射撃を行い、数発外れてしまったものの結果は二位入賞でした。悲願の優勝とは行きませんでした。二年後の二〇二二年栃木国体に向けて、社会人や大学生に負けない力を身につけて、今後の数々の大会で優勝を目標に頑張っていきたいと思

進路室から

進路指導部長 田名網 美香

生徒たちの弛まぬ努力と保護者の皆様のご協力、そして同窓会の皆様や地域の皆様のご支援のおかげで、本校の令和元年度の進路状況は、昨年度同様概ね良好でした。はじめに就職の状況を報告いたします。昨年度に引き続き、地元の製造業を中心に多くの求人をしていただきました。来校してくださった企業の方の中には、本校の卒業生だという方が何人もおられ、真岡北陵高校の同窓生の活躍と絆を強く感じました。中には、高卒求人初めて出すという企業や、十数年ぶりに高卒の求人を出すという企業もあり、「ぜひ真岡北陵高校から採用したい」というありがたいお言葉を何社からもいただきました。最終的には、昨年度を上回る五百社以上の県内企業の求人票が届き、「あまりにも求人票が多すぎて、目移りしてしまっ一社に決められない」と、賢い悩みを訴える生徒がいたほどでした。十一月末の時点で無事に全員の内定が決まりましたが、生徒たちは卒業まで気を抜くことなく、最後まで「教科の学習」プラス「社会人としてのマナーの習得と常識力の向上」に努めておりました。面接や作文等、

様々な形で世話になった先生方から教えていただいたことと合わせ、春から即戦力として就職先の皆様の期待に応えてくれることを確信しております。

続いて進学状況です。昨年度と比較すると、女子の進学率が高い学年でした。また、男女を問わず、本校で学んだ専門的な知識や技術をさらに深めるための進路選択をした生徒が多い学年でもありました。四年制大学・短期大学に進学する生徒の数は減少しましたが、自分の興味関心に合った

編集後記

新しい時代「新年号」となりましたが、台風十九号による風水害により、農産物等に与えた県内の損害は二百億をこえる額となりました。地球温暖化と関係があるのか？心配です。

本校生徒諸君において、すばらしい結果を見事に残してくれました。同窓会としても心から喜びにたえません。

卒業生の皆様におかれましては、それぞれの将来に向かい一層のご活躍を望むところでございます。

(昭和四十一年度卒 館 芳衛)

令和元年度 3年生の進路状況

(1月31日現在)

在籍数	学 科 名		男 子		女 子		合 計	
	生 物 生 産 科		28		11		39	
	農 業 機 械 科		36		1		37	
	食 品 科 学 科		8		32		40	
	総 合 ビジネス科		12		26		38	
	教 養 福 祉 科		4		17		21	
	合 計		88		87		175	
就 職	学 科 名		公 務 員		県 内		県 外	
			男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科		2	0	14	3	1	1
	農 業 機 械 科		0	0	31	1	0	0
	食 品 科 学 科		0	0	5	11	0	0
	総 合 ビジネス科		0	0	6	15	1	2
	教 養 福 祉 科		0	0	3	11	0	0
	合 計		2	0	59	41	2	3
進 学	学 科 名		国公立大学		私立大学		私立短大	
			男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科		1	0	2	0	0	0
	農 業 機 械 科		0	0	0	0	0	0
	食 品 科 学 科		0	0	1	0	0	1
	総 合 ビジネス科		0	0	2	0	0	1
	教 養 福 祉 科		0	0	0	0	1	0
	合 計		1	0	5	0	1	2

未 定	学 科 名		未 定		合 計	
			男子	女子	男子	女子
	生 物 生 産 科		0	0	11	7
	農 業 機 械 科		0	0	5	0
	食 品 科 学 科		1	1	3	21
	総 合 ビジネス科		0	0	5	9
	教 養 福 祉 科		0	0	1	6
	合 計		1	1	25	43